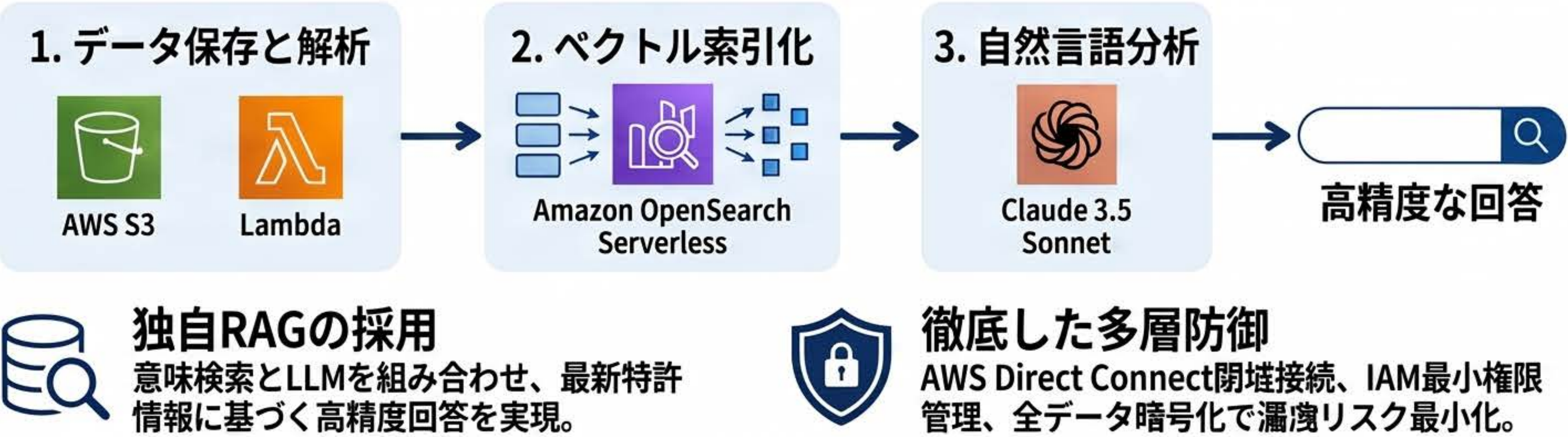


オムロン「知財AIエージェント」分析レポート：技術と組織が生んだDXの成功モデル



技術アーキテクチャ：強固なセキュリティとRAG構成



基盤プラットフォーム	
基盤	RDinX (HPC), RD Buddy (AI)
生成AI	Claude 3.5 Sonnet, Amazon Titan Text Embeddings V2
検索・DB	Amazon OpenSearch Serverless, DynamoDB, S3
セキュリティ	AWS IAM, CloudTrail, CloudWatch, Athena

組織的成功要因：「AIZAQ」による変革



参加する全社横断プロジェクト
253名
「AIZAQ」Season 2で25テーマが始動、知財AIエージェントも開発・成長。



徹底したリテラシー教育
全6回のプログラムと独自スキル評価で、知財センタ全部員がレベル1を達成。



資産化されたナレッジ
67種類の包括的プロンプト集を登備し、社内ポータルでナレッジ共有、属人化防止。

導入効果とリスク管理

導入効果：工数削減のポテンシャル

50%～90%削減

特許調査工数

調査範囲や業務内容により変動するが、リードタイムを創的に短縮。

利用者の拡大計画

R&D部門での利用者を60名から120名へ倍増計画、高い社内受容性。

リスク管理と実装ポイント



Human in the Loopの原則
最終的な法的・侵害判断には必ず人間が責任を持つ通用を徹底。



推奨される7段階の実装ステップ

- 1.業務絞り込み → 2.データETL整備 → 3.意味検索基盤 → 4.生成AI接続
→ 5.セキュリティ定義 → 6.精度評価 → 7.教育・運用

導入検討企業向けチェックリスト

☑ 検索品質	再現率, 適合率, ノイズ率
☑ 生成品質	修正率, 差戻し率, ユーザー満足度
☑ コスト	クラウド費用, Embedding再計算費
☑ 組織浸透	MAU, 教育修了率